

平成 13 年 6 月 28 日

報道関係者各位

首都圏第 3 空港に関する横須賀金田湾海上空港検討調査の報告について

民間企業 15 社で構成する横須賀金田湾海上空港研究会（事務局株式会社浜銀総合研究所）は、昨年 8 月より横須賀金田湾を対象に首都圏第 3 空港に関する調査を進めてまいりました。

当研究会は、三浦半島地域空港研究会（横須賀市・横須賀商工会議所で構成）と連名で本年 1 月に首都圏第 3 空港調査検討会事務局（国土交通省航空局）に横須賀金田湾海上空港の提案書、並びに当研究会が実施した「横須賀金田湾海上空港検討調査（中間まとめ）」を参考資料として提出いたしました。この度、その最終報告書、並びにその概要をまとめたパンフレットが完成し、本日、国土交通省にお届け致しましたのでご報告申し上げます。

報告書の主たる内容は、第一に、首都圏第 3 空港は羽田空港の補完として捉えるのではなく、首都圏全体の空港需要の観点から考察しなければならないとの考えから、首都圏全体の将来航空需要の試算を行い、羽田空港、成田空港、首都圏第 3 空港それぞれに求められる役割について考察を行った上で、当研究会としては、首都圏内に少なくともあと 2 本の滑走路が早急に整備される必要があるとの結論を得たことについて述べております。これは、現在話題となっております羽田空港の再拡張の実施如何にかかわらず、第 3 空港の早期整備が必要であるということを意味しております。

なおこうした経緯から、横須賀金田湾海上空港計画の概要については、今回は単一滑走路の場合を主としながらも、二本の平行滑走路を配置した場合の案についても検討を行いました。

第二に、横須賀金田湾の首都圏第 3 空港候補地としての適性について様々な観点から考察しております。当研究会としては、横須賀金田湾海上空港は国内線空港・国際線空港それぞれの観点から十分な後背圏を有しており、また、羽田空港の離発着経路との調整が比較的行いやすいと考えられることから、首都圏の空港容量拡大という命題を解決し得ると考えております。さらに、横須賀金田湾海上空港は東京湾口に位置することから、現在様々な研究及び運航に向けて諸準備が行われている高速海上輸送機関との連携を容易にし、モーダルシフト（輸送方式の変更）に対する社会的要請に応え得る空港であると考えております。

そして最後に、横須賀金田湾海上空港の整備に伴い、横須賀市及びその周辺地域を含むエリアにおいて、空港の運営に係わる機能やそれらの関連機能の強化あるいは新たに立地することにより地域の拠点性の向上と地域経済の基盤の強化が期待されることについて考察しております。

この度ご案内致します当研究会の調査検討結果が、広く首都圏における空港問題への理解を深めることにつながれば幸いであると考えております。

【本件に関するお問い合わせ先】
横須賀金田湾海上空港研究会事務局
株式会社浜銀総合研究所 研究開発部
大島、土野、貝畑
電話 045-225-2372 (ダイヤルイン)